



校長 坂本 晋

みたけが原便り

第3回 「出会いから相互理解へ」

(4月全校朝会より)

中央附中は4月6日に入学式があり、新たに待望の新入生39名を迎えました。新入生の諸君はサークル活動の所属も決まり、徐々に学校生活になれてきていると思います。2年生52名と合わせて総勢91名で中央附中の平成31年度(まもなく令和元年度)が始まっています。

これからは2年生1年生がみんなで力を合わせることで、それぞれにとってよりよい学校生活を築いていってほしいと思います。

しかし、特に1年生の諸君は、これまで別々の小学校で生活してきました。一人ひとりの個性や考え方がみんな違う、小学校でのこれまでのやり方や生活がそれぞれみんな違うところに加えて、そもそも中学校生活と小学校生活とは大きく異なりますので、緊張感や不安、ストレスを感じるものがたくさんあると思います。上級生や先生方に何でも尋ねて、早く新しい環境に慣れて、自分自身をそのまま素直に表現できるようにしてください。

2年生の諸君は、どうか自分が新入生だった時の心細さを思い出して、新入生が新しく始まる中学校生活にソフトランディング、軟着陸できるように、学習面やサークル活動、学校行事はもちろんのこと、清掃など日常生活の様々な場面でも、やさしく面倒を見て丁寧に教えあげてほしいと思います。そして、新入生にとって分かりやすいお手本となるように、何事も「率先垂範」してやってみせることで良きお手本を示してほしいと思います。2年生の諸君は上級生らしいリーダーシップを発揮して、是非イトコロを見せてください。

新年度みなさんが一体となって楽しく充実した附中を築いて行くに当たって、ポイントとな

るのは、初めて出会った相手を認めて、その人を知ろう、分かり合おうと互いに努力することです。そこで今日は「出会いと相互理解」について話します。

対面式では、出会いの大切さと不思議さについて話しました。皆さんが今こうして、この場に会していることは、この地球上に現在74億人を超える人がいること、日本だけでも1億2700万人ほどの人が暮らしていることを考えると、これはもう奇跡といっても良いと思います。みんなが中央附中で学びたいと思い、頑張っているこの出会いが生まれたのですから、これは、駅の待合室でたまたま一緒になったというのでは全く異なります。

この出会いを大切にしない手はありません。みなさんはこれから学校生活の中でも人生の旅路でも、大勢の人々や書物、目標や感動などたくさんの価値あるものに巡り会います。

しかし、どこかに消極的な待ちの姿勢や受け身の意識があると、自分が気がつかないでいるうちに、大事なものがいつのまにかすぐそばをスルリと通り抜けていってしまうことになりかねません。

なぜならば、物事というものは見ようとしないうちは見えないからです。花が好きな人は、道を歩いていても、ああ、チューリップ、水仙、クロッカス!と目が行きます。関心のない人は、今日通学の途中どんな花が咲いていたのか、尋ねられてもきっと覚えていないと思います。

せっかくの貴重な出会い、たとえば、もしかしたら生涯の親友となったかもしれない出会いや、自分の進路決めるきっかけとなったかもしれない出来事との出会い、そういった人生を左右する分岐点・分かれ目となる出会いに、気が

校長通信「みたけが原便り」 平成 31 年 4 月 15 日(月)

つかないでしまうと大変です。もちろん後で気がついて、頑張っただけでチャンスを取り戻す、挽回することも出来ますが、逆に一度取り逃がしてしまうと二度とその機会に恵まれないでしまうということもある。後で気がついて地団駄を踏んでももう遅いんですね。それを「あとの祭り」といいます。これは、長く人生を生きてきたからこそ言えることです。

そして、良い出会いというものは、自分は何もしなかったけれど「棚からぼた餅」のように手に入った、だらだら過ごしていたけれど「果報は寝て待て」のようにもたらされたというわけにはいきません。今自分に向かって吹いている風を敏感に感じ取り、風向きを読み、風の吹いて来る方に向かって目を見開き、両手を大きく広げて見逃さないようにしましょう。場合によっては1人では抱ききれないけれど、39人、52人、91人の仲間みんなが手をつないで協力し合うことで、初めて獲得・ゲットできるものもあるはずですよ。

すばらしい出会いは、自分から積極的に求めていく、周りの人と関わっていく、行動するところに生まれます。そのためには、なんといっても、クラスメイトに、上級生に、下級生に、先生方に、率先してまず自分から挨拶し、笑顔で話しかけてください。そこが、「相互理解」の入り口です。きっと新しい出会いの輪が広がっていきます。

相互理解ということでは、まもなく先生方との面談も行われると思いますが、みなさんが新年度が始まって、不安に感じている様々のこと疑問に思うことなどを何でも尋ねてみてください。学習の方法や、目標のたて方、サークル活動への参加の仕方や、学校生活の送り方、基本的な生活習慣の身につけ方などについても、臆せず、まわりの友達や先輩、先生方にどんどん質問してください。きっと「アアそうか」と納得のいく答え、あるいは何らかのヒントが返ってくるはずですよ。それが附中の附中たるゆえなのです。

お互いに心の窓をオープンにすることで、「出会い」から「相互理解」そしてさらには校訓でもある「研鑽努力」というステップを踏んで、みんなで切磋琢磨しながら日々成長し、明るく楽しく有意義な学校生活を築いていきましょう。

(さかもとすすむ／盛岡中央高校附属中校長)

